

宮田さんが個展 デジタルアート 60点



写真と線画を組み合わせた「レトロ電車」



海面にいる女性を描いた「OPEN SEA」



タブレットにタッチペンを向けて、デジタルアートの制作に励む宮田さん



長男と一緒に描いた「北斗七星」

パソコンやタブレットを使うデジタルアートに取り組み、町内10区の農家・宮田宏志さんの個展「Miyata Hiroaki」が9月5日から、後志管内余市町の余市ワイナリーで開かれます。農作物を栽培しながら、クリエイターとして活躍する宮田さんは「表現方法にこだわらない自由な作風を楽しんでください」と話しています。

妹背牛町出身の宮田さんは、コムと麦を35畝に作付けする農家の3代目。幼少期から絵を描くことが好きで、札幌の専門学校を卒業後はグラフィックデザイン会社などに勤めていました。

農業を継ぐため、32歳でUターン。就農後は、絵の創作活動から離れていましたが、3年前に「仕事の息抜き」としてデジタルアートを始めました。

宮田さんは、既存の写真を加えた素材に、画像や線画を加えて一つのアート作品に仕上げます。全てタブレット上で制作を進め、

仕事の合間を縫って1作品につき1〜3日間で完成させます。余市ワイナリーでの個展は、昨年が続いて2回目。これまでに書き溜めた200点以上のの中から、新作を含めた約60点を選んで展示します。

電車内を撮影した写真に、アニメのようなタッチで女性を描いた「レトロ電車」は、立体的な視覚効果を演出した作品。海面に注ぐ柔らかな陽光まで緻密に表現した「OPEN SEA」は、水墨画のような哀愁を誘います。9歳の長男と共同制作した「北斗七星」は、暖色系の背景に浮かぶ透き通った生き物や四角い星が印象的です。

宮田さんは「子どもと一緒に絵と向き合う時間も好きで、農作業で疲れた体のメンテナンスになっています」と、制作に励んでいます。

開催期間は9月5日〜11月4日。時間は午前10時〜午後4時半までです。